

レコライ・ミニ・ショフ 《 名曲特集 》

モーザルト 交響曲第40番

発行日:2026年3月24日

この音楽は、モーザルトの全作品中もっとも愛されている曲だろう。冒頭の哀愁極まりないテーマの魅力が大きく、ブルーノ・ワルターの美しい演奏以来、名指揮者の録音は常に話題になっている。40曲を超える交響曲の中でこの作品と第25番だけが短調、しかもト短調である。最も第25番はそれほど哀愁を感じさせない。また、モーザルトは31番で初めてクラリネットを使用した、その後35番とこの40番でしかクラリネットを用いていない。クラリネットと言う楽器が改良途上にあったことによるのだろうが、これによって内声部が充実していることは確かだ。(山田)

注文番号：2404

モーザルト／交響曲第36番ハ長調 K.425「リンツ」、第40番ト短調 K.550／パリ・オペラ座管／シューリヒト／仏／フェスティヴァル／FC420／赤ラベル／ステレオ／1961年録音／仏 ACC ディスク大賞受賞のコンサートホール原盤。ブルックナー演奏と同じように混じり気のないストレートな演奏はシューリヒトの孤高の世界。演奏の速さや強弱の変化などはワルターに似るが、ロマン的要素は少ない。

G/3300円



注文番号：2401

モーザルト／交響曲第25番ト短調 K.183、第40番ト短調 K.550／ウィーン・フィル／ケルテス／英／デッカ／SXL6617／スモール・ラベル／ステレオ／1972年録音／ケルテスは43歳で事故死しなかったら、最高のモーザルト指揮者になっただろう。このレコードは2曲のト短調交響曲をカップリング。ウィーン・フィルの流れは全く自然で、殊更に美しさを強調しないところが良く、全体としてはディヴェルティメント風だ。G/16500円



注文番号：2405

モーザルト／第40番ト短調 K.550、交響曲第41番ハ長調「ジュピター」K.551／ウィーン響／フリッチャイ／独／グラモフォン／2535114／ブルー・ライン・ラベル／ステレオ／1959・60年録音／レゾナンス・シリーズ／カップリング替え再発／テンポを緩めにとって緊張感を保っている。独特のフレーズ感があるが、それは雅に繋がる。単に美しいと言う雰囲気流れない、じっくりと捉えた強い演奏姿勢を感じる。

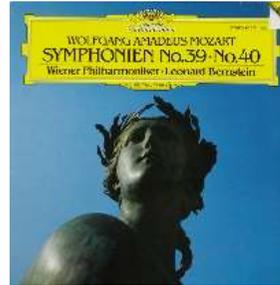
G/16500円



注文番号：2402

モーザルト／交響曲第39番変ホ長調 K.543、第40番ト短調 K.550／ウィーン・フィル／バーンスタイン／独／グラモフォン／413776-1／ブルー・ライン・ラベル／デジタル／1984年録音／オリジナル／ウィーンでの演奏会のライブ録音／強弱の幅を大きくしているが違和感が全くないどころか気持ちよく音楽が流れる。ウィーン・フィルの明るく雅な音色を生かした名演奏。バーンスタインの枯淡の境地も窺える。

G/27500円



注文番号：2406

モーザルト／第40番ト短調 K.550、交響曲第41番ハ長調「ジュピター」K.551／パリ音楽院管／ヴァンデルノート／仏／パテ／FALP470／初期セミ・サークル・ラベル／モノラル／棒付きジャケット／フラット厚手プレス／1957年録音／豊かな響きが特徴で、細やかな支持が的確でレベルの高い演奏だ。ベルギーの先輩クリュイタンスの好意でパリ音楽院管を振ったのだろうか。

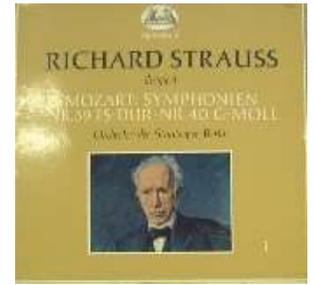
G/11000円



注文番号：2403

モーザルト／交響曲第39番変ホ長調 K.543、第40番ト短調 K.550／ベルリン国立歌劇場管／R.シュトラウス／独／ヘリオドール／88022／ゴールド・ラベル／モノラル／1926年録音／ロマンティックなムードに流される事無く、古典交響曲のスタイルに徹した往年の名演奏。モーザルトもドイツの堅固な交響曲の一つとして位置づけられていた時代だ。これは、演奏史を知る上での資料的価値は極めて高い。

G/33000円



注文番号：2407

モーザルト／第40番ト短調 K.550、交響曲第41番ハ長調「ジュピター」K.551／ベルリン・フィル／カラヤン／独／エレクトローラ／1C065-02147／切手ラベル／ステレオ／独プレス／1970年録音／颯爽とした速いテンポで進むのはドイツ正統派の伝統か。時には大きなヤマも作りながら推進力を持った演奏は興奮を醸し出す。音の重なりや響きの中に時としてカラヤン特有の美しさが生まれている。

G/22000円



注文番号：2408

モーツァルト／第40番ト短調 K.550、交響曲第41番ハ長調「ジュピター」K.551／ベルリン・フィル／カラヤン／仏／パテ／2C069-02147／切手ラベル／ステレオ／赤枠ジャケット／1970年録音／後期6大交響曲録音のバラ発売／前番号のフランス盤／カラヤンの緻密な演出が随所に感じられる演奏。第40番はただ優美な音楽であるとカラヤンは捉えていないようだ。テンポは前へ前へと軽快に進む。

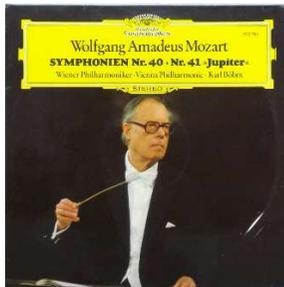
G/2200円



注文番号：2409

モーツァルト／第40番ト短調 K.550、交響曲第41番ハ長調「ジュピター」K.551／ウィーン・フィル／バーム／独／グラモフォン／2530780／ブルー・ライン・ラベル／ステレオ／1976年録音／オリジナル／旧録音のベルリン・フィルの構築力とは異なり、まず、テンポを遅めにとって形を整え、ウィーン・フィルの持つ優雅さを浮かび上がらせて細やかな配慮をもって歌い上げるバーム、最晩年の境地と言うべきか。

G/2200円



注文番号：2410

プフィッツナー：「パレストリーナ」前奏曲／モーツァルト：第40番ト短調 K.550／ブルームス：交響曲第4番ホ短調 op.98／ベルリン・フィル／フルトヴェングラー／独／フルトヴェングラー協会／F666156-7／グレー・ラベル／モノラル／1949年ヴィスバーデン・ライブ録音／2枚組／第4面ラベル破損／全てこの協会盤で初出音源／壮絶なライブとして知られているが、モーツァルトはテンポは速めだが、落ち着いている。

G/6600円



注文番号：2411

モーツァルト：第40番ト短調 K.550／ベートーヴェン：交響曲第1番ハ長調 op.21／18世紀オーケストラ／ブリュッヘン／蘭／フィリップス／416329-1／新ラベル／デジタル／1985年録音／オリジナル／18世紀管&ブリュッヘン・コンビのデビュー盤。コントラストを強調し意欲溢れる疾風怒濤のモーツァルト。古楽器演奏により新発見の連続である。これが原点に最も近いのだろうか。特に管楽器の音が目立って聴こえる。

G/2750円



注文番号：2412

モーツァルト／第40番ト短調 K.550、アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク／イスラエル・フィル／メータ／英／デッカ／SXL6844／スモール・ラベル／ステレオ／1977年ロック技師による名録音／オリジナル／イスラエル・フィルの滑らかな弦セクションが両曲ともに良く似合う。決して早くならず快適なテンポで幸福感をもって歌い上げる。ここにはワルター時代の美しいモーツァルトの伝統がまだ生きている。

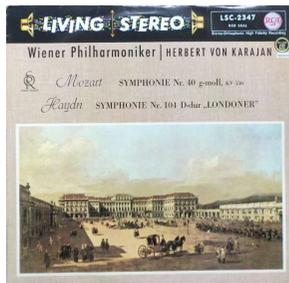
G/3300円



注文番号：2413

モーツァルト：第40番ト短調 K.550 ハイドン：交響曲第104番二長調「ロンドン」／ウィーン・フィル／カラヤン／独／RCA／LSC2347／シルヴァー・ロゴ・ラベル／ステレオ／テルデック・プレス／1959年録音／ジャケット・デザインは米盤と同じで、企画がLDSでなくLSC。カラヤンはウィーン・フィルから美しいだけでなく豊かな音量を引き出し、折り目正しく、形よく整えている。この盤の米オリジナルは極めて入手難だ。

G/3300円



注文番号：2414

モーツァルト：第40番ト短調 K.550 ハイドン：交響曲第94番ト長調「驚愕」／NBC響／トスカニーニ／米／RCA／LM1789／シェード・ブラウン・ラベル／モノラル／1950・53年録音／作品の古典的骨格をあらわにしたように明確な演奏で華美に流れない行き方は一つの方向の典型だろう。こうした解釈から生まれた音楽もまた素晴らしい。名演奏と言って良い。ハイドンは急緩の変化に自信が漲り更に素晴らしい。

P+/2750円



注文番号：2415

モーツァルト／第40番ト短調 K.550、セレナード第6番二長調「セレナータ・ノットウルナ」／イギリス室内管／ブリテン／英／デッカ／JB107／新ラベル／ステレオ／1968年録音／ジュビリー・シリーズ／蘭プレス／ブリテンの指揮は実に本格的な名指揮者振り。生き生きとした音楽の進め方はモーツァルトに最適で、ただただ聞き惚れるだけ。イギリス室内管の奏者も粒揃いである。これは、1981年の再発盤だ。

P+/1320円

